医工学研究科(医工学専攻) 学位論文に係る評価に当たっての基準

○博士論文(課程修了によるもの)の評価基準

(ア) 満たすべき水準

医工学分野において、独創的視野に立って先端的研究に貢献をなし、自立した研究者としての研究活動又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有することを証示するに足るものであること。

(イ) 評価項目

- ① 論文の主題を究明することに社会的・学問的な必要が認められる。
- ② 研究対象である主題に即した研究方法が選択されている。
- ③ 研究対象が、歴史的・分野横断的・国際的な文脈を踏まえた、広い視野の下に捉えられている。
- ④ 豊かな学識と高度の専門的知識・技能を修得しており、それに基づいて、医工学分野において自立して独創的な研究を遂行し指導できる能力、又は高度に専門的な職業に従事でき、医工学分野の特定の領域において卓越した能力を有していることが示されている。
- ⑤ 先行研究を踏まえた検討が行われており、関連する文献等を明確に示している。
- ⑥ 論旨が明快で一貫しているとともに、適切な表現によって論述されている。
- ⑦ 既存の研究には見られない独創的な分析、解釈、提案等を行っており、当該学界又は専門職における議論の深化・発展に貢献し得る、先導的な学術的又は実践的意義を有している。

(ウ) 審査委員の体制

審査委員は、本学学位規程第9条の規定により、学位申請者のある本研究科を組織する講座等に属する教授又は准教授である研究科担当教員から3名(原則として、医学系教員及び工学系教員各1名以上を含むこと。)以上選出するものとする。

(エ) 審査の方法

- ① 博士論文を提出した者に対して、論文審査及び最終試験を行い、上記の評価項目により総合的に評価する。
- ② 最終試験は、博士論文及び関連する科目について、口頭試問により行う。

○博士論文(論文提出によるもの)

(ア) 満たすべき水準

医工学分野において、独創的視野に立って先端的研究に貢献をなし、自立した研究者としての研究活動又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有することを証示するに足るものであること。

(イ) 評価項目

- ① 論文の主題を究明することに社会的・学問的な必要が認められる。
- ② 研究対象である主題に即した研究方法が選択されている。
- ③ 研究対象が、歴史的・分野横断的・国際的な文脈を踏まえた、広い視野の下に捉えられている。
- ④ 豊かな学識と高度の専門的知識・技能を修得しており、それに基づいて、医工学分野において自立して独創的な研究を遂行し指導できる能力、又は高度に専門的な職業に従事でき、医工学分野の特定の領域において卓越した能力を有していることが示されている。
- ⑤ 先行研究を踏まえた検討が行われており、関連する文献等を明確に示している。
- ⑥ 論旨が明快で一貫しているとともに、適切な表現によって論述されている。
- ⑦ 既存の研究には見られない独創的な分析、解釈、提案等を行っており、当該学界又は専門職における議論の深化・発展に貢献し得る、先導的な学術的又は実践的意義を有している。

(ウ) 審査委員の体制

審査委員は、本学学位規程第9条の規定により、学位申請者の専攻分野に関連のある本研究科を組織する講座等に属する教授又は准教授である研究科担当教員から3名（原則として、医学系教員及び工学系教員各1名以上を含むこと。）以上選出するものとする。

(エ) 審査の方法

- ① 博士論文を提出した者に対して、論文審査及び学力確認を行い、上記の評価項目により総合的に評価する。
- ② 学力確認は、博士論文、関連する科目及び英語について、口頭試問により行う。

○修士論文の評価基準

(ア) 満たすべき水準

医工学分野において、独創的視野に立って先端的研究に貢献をなし、研究活動又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有することを証示するに足るものであること。

(イ) 評価項目

- ① 論文の主題を究明することに社会的・学問的な必要が認められる。
- ② 研究対象である主題に即した研究方法が選択されている。
- ③ 研究対象が、一定の広い視野の下に捉えられている。
- ④ 豊かな学識と高度の専門的知識・技能を修得しており、それに基づいて、医工学分野において自立して独創的な研究を遂行し、又は専門的な職業に従事でき、医工学分野の特定の領域において能力を有していることが示されている。
- ⑤ 先行研究を踏まえた検討が行われており、関連する文献等を明確に示している。
- ⑥ 論旨が明快で一貫しているとともに、適切な表現によって論述されている。
- ⑦ 既存の研究には見られない独創的な分析、解釈、提案等を行っており、医工学分野において議論の深化・発展に貢献し得る、先導的な学術的又は実践的意義を有している。

(ウ) 審査委員の体制

審査委員は、教授又は准教授である研究科担当教員を複数の講座等から選出し、本研究科を組織する講座等に属する教授（専任の教授、協力講座の教授若しくは指導教員である協力教員の教授とする。以下同じ。）2人以上を含むものとする。また、本研究科委員会が必要と認めたときは、本学大学院研究科担当教員及び他の大学院等の教員等を加えることができる。

(エ) 審査の方法

- ① 修士論文を提出した者に対して、論文審査及び最終試験を行い、上記の評価項目により総合的に評価する。
- ② 最終試験は、修士論文及び関連する科目について、口頭試問により行う。